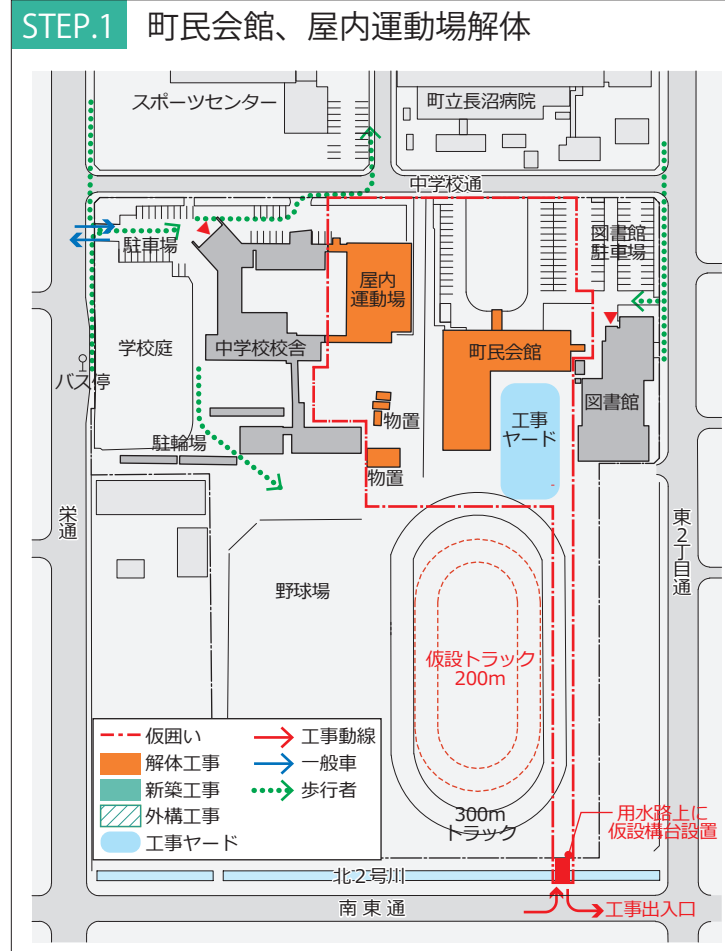


合理的な配置・建築計画により、工事中の地域と学校の安全を守ります



(工事中の生徒の安全配慮、工事車両との動線の分離)
子どもたちの安全を第一に考えた仮設計画

- 工事中の通学と近隣の安全に配慮して、工事車両の出入口は幅員の大きい町道南東通及び栄通に設けます。
- 全工事期間を通して、中学校・図書館・スポーツセンターを利用する歩行者動線、一般車両動線と工事動線を明確に分離した仮設計画を検討します。

【STEP.1】町民会館、屋内運動場解体

- 工期を短縮するために既存の中学校屋内運動場、町民会館を先行して解体します。
- 解体時から工事車両出入口を南東通からとし、校舎新築時を想定した仮囲い範囲とします。
- 北2号川に仮設構台を設置して工事車両動線とし、北側の通学路、スクールバス乗降場、駐車場を従来のまま利用できる仮設計画とします。

【STEP.2】新校舎新築、外構工事①(新校舎周囲)

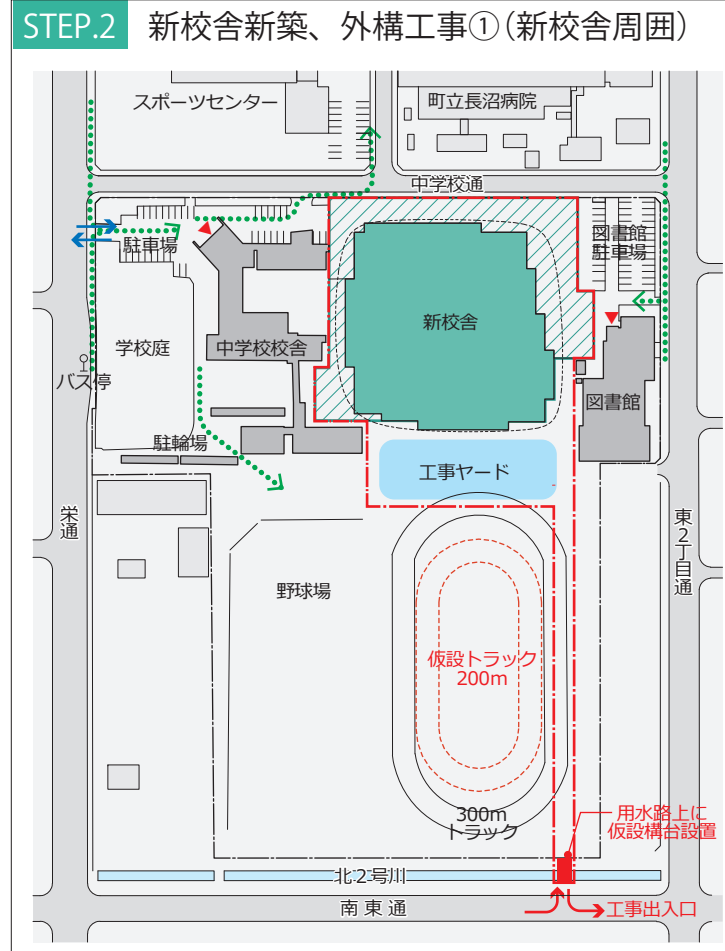
- STEP1の仮囲いと工事車両出入口を継続し、通学の安全を確保して新校舎と建物周り外構の工事を行います。

【STEP.3】既存校舎解体

- 新校舎へ引越後、既存校舎の解体を行います。
- 解体時には工事車両の出入口を栄通側とし、この段階でも工事車両は中学校通りを通行しない計画とします。
- 南東通からの仮設通路を解体し、旧校舎解体とグラウンド復旧整備は同時に行います。

【STEP.4】外構工事②(既存校舎解体跡)

- STEP3の栄通側工事出入口をそのまま利用して、既存校舎解体跡地の駐車場整備を行います。
- 図書館駐車場の出入口を東2丁目通へ移動します。



(既存校舎の学習及び運動スペースの継続利用など学校運営への配慮)
工事範囲を最小限にする建築、外構計画

- 校舎は屋内運動場と一体のコンパクトな1棟として計画し、また、南側グラウンドと西側の既存緑地をほぼ現状のまま活用することで、解体～建築～外構の工事範囲を最小化し、学校や近隣への影響を最小限にします。

安全で快適な学校運営を支える動線計画

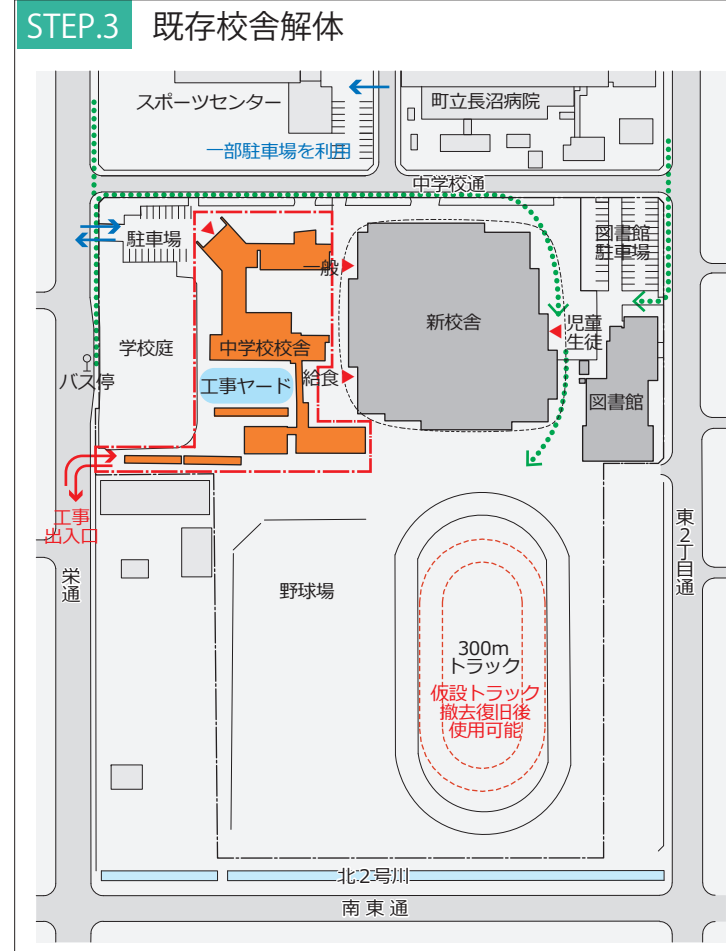
- 工事動線の徹底した分離により、通学経路とスクールバス乗降場は、全工程を通して現状のまま利用できます。
- STEP1-2において、中学校通に工事車両を入れないため、既存屋内運動場が使えない期間に利用想定のあるスポーツセンターと校舎の間は、安全に行き来できる計画とします。
- STEP1-2で、グラウンド上に工事通路を設置する間は、200mの仮設トラックを整備し、運動場機能を維持します。
- STEP1-2においては中学校と図書館の駐車場は現状台数を維持し、STEP3-4のみスポーツセンターの駐車場を連携活用する想定です。

騒音の少ない工法で学校運営と近隣に配慮

- 2階建ての新校舎は杭が不要な直接基礎とし、大幅に工期を短縮すると共に杭打設時の騒音をなくします。
- コンクリートの現場打設作業を縮減できるハーフPC工法など、騒音の発生を抑える工法を検討します。

未来への期待感を創出する仮囲いの演出

- 解体を含めて3年に渡る長期間の工事であるため、景観への影響の大きい仮囲いに児童生徒が描いた作品を展示するなど、地域のみなさまが楽しめる仮設計画を提案します。

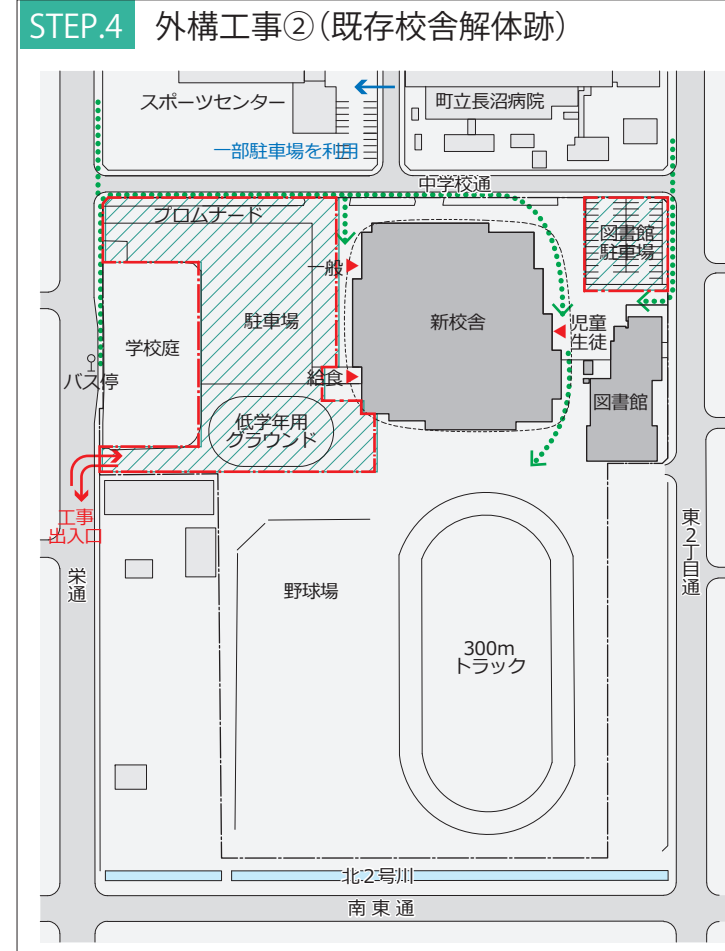


(杭工事、冬季施工等を考慮した工期短縮に向けた具体的方策)
コスト縮減と工期短縮を両立する2階建て校舎

- 杭の不要な直接基礎工法とすることで、既成杭の発注期間と杭工事期間を削減します。
- 2階建てとすることで、3階建てに比べて1層分の躯体工事期間を短縮します。
- 躯体打設期間にあたる2025年度冬季の約2.5か月間を休工とすることで、仮設上屋やコンクリート養生温度管理などの冬期養生費を削減することができます。
- 上記により、新校舎工程を約3か月短縮でき、2026年度の卒業式を新校舎で行うことが可能となります。

想定工事工程の比較

全体工程	2024年度 (R6)					2025年度 (R7)					2026年度 (R8)					2027年度 (R9)									
	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
要綱案	全体工程29か月 新校舎建設工事約22か月 2027年度4月利用開始 既存校舎解体工事 4か月 外構工事(グラウンドなど)																								
3階建ての場合	準備 杭調達 杭工事 土工 基礎 1階躯体 2階躯体 3階躯体 体育館 鉄骨 防水工事 外装工事 内装・設備工事 検査 引渡し 仮設トラック 仮設通路 仮設構台																								
2階建ての場合(冬季施工なし)	準備 土工・地盤改良 基礎 1階躯体 2階躯体 体育館 鉄骨 防水工事 外装工事 内装・設備工事 検査 引渡し 仮設トラック 仮設通路 仮設構台 3か月短縮 2026年度1月利用開始 既存校舎解体工事 5か月 アスベスト処理 建物解体 外構工事②																								
別案：最短工期により既存建物利用を最長化	準備 土工・地盤改良 基礎 1階躯体 2階躯体 体育館 鉄骨 防水工事 外装工事 内装・設備工事 検査 引渡し 仮設トラック 仮設通路 仮設構台 2025年度5月まで利用可能 2027年度4月利用開始 既存校舎解体工事 5か月 外構工事②																								



条件に応じて柔軟な計画・工程を提案します

- 冬期間に工事を行う場合は、提案工程よりさらに2~3か月程度工期を短縮することができます。
- 基本構想のとおり2026年度末竣工を条件とする場合は、新校舎の着工時期を遅らせて、既存先行解体を2025年度に実施することも可能となります。これにより、体育館と町民会館の利用期間を最長化することができます。
- 長沼町の年次計画や学校運営の条件の整理、工事費と工事期間のバランスなど、ご要望に応じた工事工程を柔軟に検討します。